

# お父さんの誕生日 【高学年 4 - ( 4 )】

## - 「心のノート」を活用した取組み -

( 1 ) 主題名 社会に奉仕する喜び [ 4 - ( 4 ) ]

( 2 ) ねらい 社会のために働く意義や喜びがわかり、社会のためになる仕事をしようとする意欲を高める。

( 3 ) 資料名 「お父さんの誕生日」

( 4 ) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	1 自分たちの知っているボランティア活動について話し合う。	「ボランティア活動」とはどんなことでしょう。(どんな活動があるのでしょうか。) ・本業のほかにする仕事。 ・自分から進んで、みんなのために働くこと。	自治体や広報やボランティア活動組織の会報などを準備しておき、活動の内容などについて確認させる。
展 開	2 資料「お父さんの誕生日」を読んで話し合う。  3 自分の生活を振り返って、発表をする。	お父さんを、どんな気持ちで待ちましたか。 ・早く帰ってこないかなあ。 ・弟と二人でケーキをせっかく作ったのになあ。 ・お父さんの誕生日をいっしょに祝ってあげようと思っているのに。  さと子はおばさんの話からどんなことを思ったでしょう。 ・中学生が活気づいてすごいなあ。 ・お父さんはみんなのために働いているんだな。 ・父親の指導する姿はカッコいいなあ。  社会のためになることが、私たちにもできないかな。発表しましょう。 ・人に道を教えてあげたら、お礼を言われていい気持ちだった。 ・リサイクルなどの活動ができそうだなあ。 ・新聞作りなどの PR 活動なんかもできそうだなあ。	お父さんが剣道教室に指導にいくようになった経緯を確認する。  おばさんから話を聞いて、父親は社会のために働いているという気持ちを持ったことを押さえる。  人の役に立った体験を思い出させ、そのときに味わった思いをワークシートに書かせる。 「心のノート」P87 を見て自分のできそうな社会のためになることを発表する。
終 末	4 教師の説話を聞く。	・自分にもできることがあれば、やっていこう。	進んで社会のためになることをしようとする心の大切さを語りかける。

## お父さんの誕生日

今日は、お父さんの誕生日。さと子と弟が作ったケーキとごちそうとプレゼントは、テーブルに置かれたままです。お父さんは、まだ帰ってきません。

「お父さん、まだ。」

さと子は、台所にいるお母さんにたずねました。

「お父さんは、今日、『剣道教室』に行ってるのよ。」

と、夕食の準備をしながら、お母さんは答えました。

「せっかくお姉ちゃんとケーキも作ったのにな。お父さん早く帰ってこないかな。」

弟はぶつぶつ言いながら不満顔です。さと子も(お父さん)たら、今日ぐらいいは休んでくれてもいいのにな。(と思いました。そんな気持ちから、

「いつか『もう剣道はやめようか』って、お父さん言っていたのに。」

さと子は、部屋に入ってきたお母さんに話しかけました。お母さんは、

「そうね。去年の剣道の大会で足を痛めたけど、足が少しよくなって、地元の剣道教室の指導をするのならできそうだと、自分からかってでたのよ。」

と教えてくれました。

時計を見ると、いつもなら帰ってくる時間です。

さと子と弟は、しびれをきらして、小学校までお父さんを迎えに行くことにしました。とちゅうで、防具を背負って帰っている友だちに出会いました。二人はお父さんの姿を探しましたが、どこにも見当たりません。小学校につくと、体育館の明かりがまだともっています。さと子と弟は明かりのついている体育館をのぞいてみました。すると、お父さんは中学生を集めてけいこをつけていました。小学生に指導した後、中学生にも指導していたのです。

「すごいなあ。中学生にも教えているのか。お父さん、自分の誕生日忘れているのかな。」

と、弟が少しおどろいたように言いました。

そこへ、近所の中学生のお母さんが、

「こんばんは。お父さんのお迎えね。さと子ちゃんのお父さんが剣道教室を見に来るようになって、みんな大助かりよ。活気付いてね。ほら、お父さんは『剣道は試合だけじゃなくて、礼儀作法や相手を思いやる心が大切だ。それから剣道は楽しんでやらないと。』といつも言っておられるでしょ。みんなずいぶん礼儀正しくなったのよ。」

と、満足そうな顔をして歩いていきました。

さと子は、帰り道にお父さんにたずねました。

「お父さん、剣道教室は楽しい。」

「ああ。みんな一生懸命やっているから、やりがいがあるよ。」

と、お父さんはすがすがしい顔で答えました。

そんなお父さんの顔を見ながら、さと子は、私も自分のことをやっていたと思っていました。

# 活用に生かすための実践報告

「お父さんの誕生日」

分が社会のためにできそうなことを考えさせる。

## 1 主題の設定

社会生活は、いろいろな人が助け合ったり、支えあったりすることで成り立っていくものである。そのような仕組みを知ったとき、自分もまた、周囲の人たちや社会にためになることをしようとする気持ちになっていくし、それが、自己形成にもつながる。自分も何か人のために役立つことができるのではないか、今の自分ならこんなことができるという意欲の高まりが、広く社会のために役立つ仕事へとつながっていくのである。

また高学年ともなると、社会生活についての見方・考え方が深まってくる。したがって、社会奉仕の大切さと尊さについても理解している。そのような活動が、人々のために役立っているということをあらためて確認し、どんな小さなことでも、社会に貢献できる仕事を進んでやり遂げようとする意欲を、自らのうちに育てていくことは重要なことである。

この資料は、せっかくの父親の誕生日なのに、父親は、剣道教室で帰りが遅い。さと子と弟は不満である。しかし、父親が剣道教室に出始めたきっかけや、近所のおばさんに父親の指導に対する考え方を聞く中で、さと子は父親のすばらしさを感じ、人のために役立つことの意義をくみとる。

## 2 指導過程の工夫

導入部分で、自治体の広報やボランティア活動組織の会報などを準備しておき、活動の内容などについて確認させると効果的である。

展開の後段では、社会のためになることをやっている同年代の子どもたちの例や、あらかじめ奉仕活動などをした児童のことを紹介することも大切である。また、心のノート P87 から自

## 3 発問の工夫

中心発問では、おばさんの話を聞いて、父親への尊敬の気持ちを持った、さと子の気持ちが、父親の指導の姿を見するという行動にあらわれたことに気付かせることを大切にする。そのために、お父さんの帰りを待つ、さと子の気持ちをおさえることが大切である。

## 4 児童の反応

(ワークシートより)

・今までは、ゴミ拾いなどの活動があったら(参加する人はえらいなあ)と思っていたけど今度は自分から積極的に参加していきたい。

・困っている人を見かけたらできる限り協力していきたい。

## 5 実践者からの一言

今回の授業で、すぐに社会のために役立つことをすぐにでもしようとする児童は見られないが、授業を通してあらためて、社会奉仕の大切さを自覚できたのではないかと思う。これから生きていく中で、人は助け合ったり、支え合ったりしながら成り立っていることを実感し、社会のために役立つことができていってくれたらと思う。

(総領小学校 瀬尾英寿)